

相生歴史マップ資料 1 3 矢野荘

「矢野荘」は相生市が誇る播磨第二の大荘園です。

この矢野荘は荘園がそのまま、地方公共団体になっている数少ない例の一つだそうです。

さらに、加賀藩主前田綱紀が整理・筆写した約 25,000 通にもものぼる歴史研究の必須資料で、2015 年世界記憶遺産にも登録された「東寺百合文書」に多く記載されています。そのような歴史資料に矢野荘が記載されている理由はその成立と深く関わっています。



昔、鳥羽上皇から愛されていた美福門院という皇后がいました。彼女は現在の相生駅周辺を占める「久富保」というところを荘園にするように申請し、これが現在の矢野荘のもととなりました。相生市北部の矢野川流域は、肥沃な条里制の耕地であり、政府の土地である「国衙領」として管理されていました。美福門院は自分の地位にものを言わせ国衙領を取り込み、自分の荘園にしようとしていました。1137 年、鳥羽上皇の院庁はこれを認め「皇室領矢野荘」が成立しました。その後、美福門院から娘の八条院へ継承され、1160 年、例名と別名に分割されました。1300 年、龜山上皇が別名を南禅寺に寄進、1313 年、後宇多上皇が例名領家を東寺に寄進します。領家方の経営に乗り出した東寺と、地元で勢力拡大を図っていた寺田法念が対立、寺田法念は「悪党」と呼ばれるようになりました。

矢野荘の主な歴史

- 1075 年 赤穂郡司秦為辰が「久富保」の開発を開始
- 1137 年 「皇室領矢野荘」が成立。その後、美福門院から娘の八条院へ継承
- 1160 年 八条院が例名(矢野・若狭野 6 割+那波・相生)と別名(矢野・若狭野 4 割)に分割
- 1221 年 承久の乱後 海老名氏が新補地頭として赴任。年貢徴収をめぐる領家、預所と紛争が起こる
- 1297 年 例名の領家と地頭は下地中分を行うことで合意(西側は領家方、東側は地頭方)
- 1300 年 別名を龜山上皇が南禅寺に寄進
- 1313 年 例名の領家方を後鳥羽上皇が東寺に寄進。東寺は、鎌倉時代末期から室町時代まで例名の領主として経営にあたり記録を保存してきました

矢野荘には他にも、磐座神社、浅野陣屋、和泉式部と子式部内侍との出会いで有名な「雨宿りの栗(枝垂れ栗)」の名所、播磨造船所、感状山城、三重の堀切で有名な下土井城など、古代、中世、近世、近代の歴史的名所が多くあります。歴史を学びたい人にとっては魅力あふれる場所です。



東寺百合文書(シ函)(京都府立京都学・歴彩館 東寺百合文書 WEB から)

参考

- ・松本恵司『相生若狭野 旗本浅野陣屋 札座保存プロジェクト』(浅野陣屋札座保存ネットワーク、2016年)
- ・京都府立京都学・歴彩館 東寺百合文書 WEB <http://hyakugo.pref.kyoto.lg.jp>
- ・日本史オンライン講座「皇室領矢野荘」 <http://asanojinnya.com/page-928/>